

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	聴覚障害児支援 かいじゅうの森			
○保護者評価実施期間	R7年 2月 25日 ~ R7年 3月 19日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 12人	(回答者数) 12人		
○従業者評価実施期間	R7年 2月 25日 ~ R7年 3月 7日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 6人	(回答者数) 6人		
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 3月 24日			

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・聴覚に障害がある幼児が通所しているため、共通言語を手話として支援を行っている。 ・スタッフにろう者がいることにより、子どもたちのロールモデルとなることが出来る。	・目と目を合わせて初めてコミュニケーションが始まるという考え方のもと、友達やスタッフを呼ぶときは肩をトントンと叩いて呼ぶことを繰り返し伝えている。 ・声だけで喋っていたら通じないことを、ろうスタッフには特に丁寧に伝えてもらっている。	・聞こえるスタッフが安易に声だけで子どもを呼ばない。 ・ろうスタッフと子どもたちがいつも通じる環境を作る。
2	・手話で話せる友達、スタッフがいる。	・常に手話が側にあるように気を付けている。	・手話技術を含め、手話環境をさらに充実する。
3	・視覚情報を子どもの状況に合わせて提示している。	・掲示の仕方の研修をスタッフ全員で受け、子どもたちから見ると、どのように見えているのかを想像しながら部屋の環境を整えている。	・より分かりやすい掲示、提示の研鑽を積む。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・聴覚者スタッフの手話の技術不足。 ・自閉スペクトラム症など、聴覚以外の障害に対しての知識や技術の不足。	・手話技術の向上を個々人に任せてしまっていること。 ・障害について、スタッフ全員で受ける研修の機会を今年度は持てなかった。	・4月以降、朝のミーティング時にろうスタッフから5分程度の手話の勉強会を毎日してもらう。 ・スタッフ研修に積極的に取り組んでいく。
2	・保護者同士が集まる場を設定していない。	・時間の調整が難しい。	・次年度の4月に保護者会を開催予定。
3	・地域の子どもたちとの交流が少ない。	・コミュニケーション手段の相違や現在の地域との関係性を考えると難しい。	・現在発信しているNPOの行事のお知らせを、さらに地域にも発信していく。